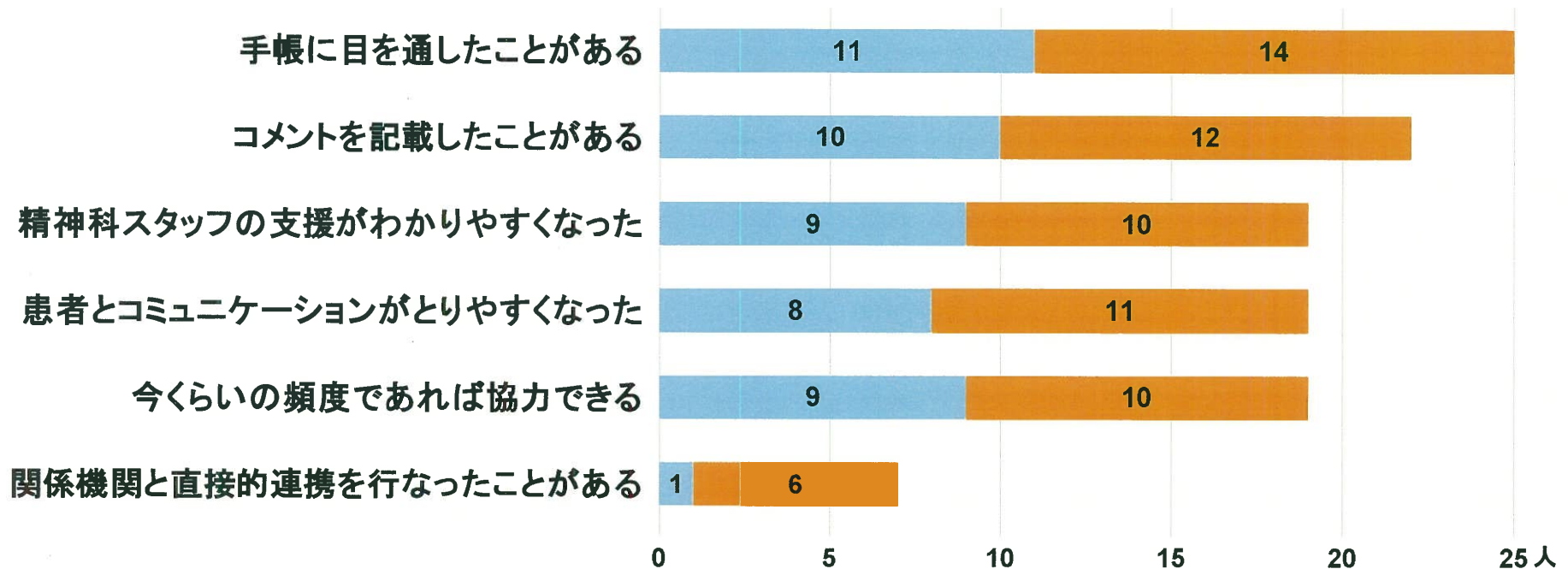


～ 地域連携パスの使い心地について ～ 関係機関向けアンケート結果

■ 法人内
■ 法人外



地域連携パスを活用することで関係機関スタッフは精神科スタッフの支援をイメージしやすくなり、患者とコミュニケーションがとりやすくなったと評価していることがわかります。

関係機関スタッフは地域連携パスに目を通し、ケアプランを記載していることもわかりました。手帳を見たりケアプランを記載する負担感は現在の利用頻度であれば問題ないようです。

《アンケートに協力して下さった職種・部署》

- 法人内 精神科医(8名)・外来看護師(1名)・訪問看護師(1名)・精神科デイケア(1名)・地域活動支援センター(1名)
就労関連施設(1名)・グループホーム(1名)
- 法人外 かかりつけ医(3名)・産業医(1名)・訪問看護師(1名)・地域活動支援センター(1名)・就労関連施設(5名)

《地域連携パスを活用することで困ったこと》

- 面接を担当しているスタッフ以外に手帳を出したがないケースがあった。
⇒利用者はコミュニケーションが取れているスタッフと地域連携パスを作成します。
連携先に提出できなくても、情報提供などの方法があります。利用者の意思やペースに合わせて進めて下さい。
- ”暮らしの手帳”という名前にまだ馴染んでいない。
⇒まだ地域でも十分に周知されていません。困ったときには”地域連携パスのご説明”をご活用ください。
- 1枚目の”私らしい暮らしのシート”を一度に完成させようとして大変だった。
⇒スタッフが大変なことは利用者にとっても大変です。お互いのペースに合わせて進めて下さい。

《地域連携パスを活用することでよかったこと》

- 1ヶ月に1回くらいの頻度で活用している。わかりやすく助かっている。
- 利用者とコミュニケーションを取りやすくなった。
- お互い手帳を使うことに慣れてくると、毎回手帳を使わなくてもフォローできるようになった。
- 状態を把握しやすくなった。
- 電話相談のときに”不調のサインと対処”はとても役に立つ。
- 利用者との関係が良くなった。
- 医師の治療方針が記載されているので分かりやすい。
- ”体調チェックシート”をアレンジできるので柔軟性があっていいと思う。
- 今後は連携機関と直接連絡を取り合ってみたい。

《地域連携パスへの要望》

- 飲んでる薬の効果などを記載できる欄がほしい。
- 勉強会を開催してほしい。
- 冊子にしてもらおうと使いやすい。

様々なご意見ありがとうございました。要望については筑紫地区地域自立支援協議会連携部会において検討し、随時ご回答致します。詳しくは地域連携パスサイトをご参照下さい。